寺岡洋さんが、亡くなられました

飛田雄一

『むくげ通信』306 号（2021 年 5 月 30 日）

2012 年 11 月 8 日、神戸学生青年センター・朝鮮史セミナー／『ひょうごの古代朝鮮文化―猪名川流域から明石川流域―』

むくげの会の会員であった寺岡洋さんが、今年 4 月 24 日に亡くなられました。79 歳、ガンでした。寺岡さんは、初期の学生センター朝鮮語講座受講生でした。その後、広島に転勤されてからは、原田環さんらとともに広島朝鮮史セミナーの中心メンバーとしても働かれました。寺岡さんのお仕事を知らないかたもおられましたが、税関職員でした。むくげの会では唯一の国家公務員だったのです。労働運動に特に熱心だったわけではないようですが、退職まで御用組合へに加入せず少数派組合の組合員でした。職位、はなはだしくは給料まで差別があったようです。

むくげの会へは、広島から戻られてから、1983 年 4 月に入会されました。2018 年 12 月、奥様の看病などのために休会されました。みんなが復帰を待っていましたが、かないませんでした。

寺岡さんは韓国の新聞をよく読んでいて、センターの東亜日報は、開架ののちすべて自宅にもっていって、切り抜きをされていました。会のそれぞれのメンバーに関連する記事を切り抜いて（その頁をちぎって）、例会のときにもってきてくれました。在日関係の記事は、ほとんで私がいただきました。休会されてからも、ネット上の記事によく目をとおされ、メーリングリストで紹介をしてくださいました。

私は、個人的にもつきあいがあり、1980～90 年代、正月は家族ぐるみでスキーにでかけていました。寺岡さんはそれまでスキーの経験はなかったようですが、お子さんふたりとそれなりに楽しく滑っていました。私は、寺岡家のスキーの先生だったのです。宿では毎夜、トランプに興じましたが、けっして得意ではなかったようです。ドンキー（うすのろのばか）という頭と体の両方をつかう遊びでは、飛田家のほうが圧倒していました。むくげの会では麻雀をしていた時期がありました。賭けもせずによく徹夜ができるなあとバカにされていました。寺岡さんは、麻雀は強いほうでしたが、このトランプはだめだったのです。囲碁は、堀内さんより少し上、飛田よりはるか上でした。60 の手習い（？）でピアノ教室に通い、むくげ宴会では朝鮮歌曲の弾き語りをしてくれました。十八番は「パウイコゲ」。鹿嶋節子さん、山下昌子さんとセンターでピアノ発表会もされていました。

寺岡さんは、通信では、古代の日本と朝鮮の関係について多くのレポートを書き、むくげ叢書の 6 冊目として『ひょうごの古代朝鮮文化―猪名川流域から明石川流域―』(2021.6) をまとめられました。通信に書かれた寺岡さんのレポートは別掲（山根俊郎作成）のとおりです。叢書の続編を企画されていましたが、それを読むことができないのが残念です。

むくげ合宿で、奈良、和歌山、淡路へ行ったとき、その地の古代の日本と朝鮮の関係について、事前の調べを十分にし、フィールドワーク地図をつくって説明してくれました。学生センターの山陰線と朝鮮人フィールドワーク (2001.11) でも古代担当は寺岡さんでした。丹波篠山の朝鮮人の歴史を掘り起こす活動にも参加され、篠山市人権同和教育研究協議会編『デカンショのまちのアリラン―篠山市＆朝鮮半島交流史 古代から現代まで―』(2006.12、神戸新聞総合出版センター）にも原稿をかかれています。

本通信に会員全員が追悼文を書くべきところですが、飛田と元会員の佐々木道雄が代表して書くことになりました。寺岡さん、安らかにお休みください。